

**単機関研究用**

**研究課題名：高次脳機能障害における転倒リスクの要因を明らかにする研究**

**1. 研究の対象**

2022年1月1日～2024年12月31日に当院リハビリテーション科で高次脳機能障害の評価を受けた18歳以上の患者さん

**2. 研究目的・方法・期間**

**・研究目的、方法**

この研究は、高次脳機能障害の転倒リスクの要因を明らかにし各要因に対しての予防策を考え皆様がより安全に安心してより良い生活が送れるよう支援する目的のために行うものです。高次脳機能障害をお持ちでない方も高齢になれば認知機能や注意集中力の低下、身体能力の低下で転倒リスクは高くなります。元々障害をお持ちになっている高次脳機能障害者の方々は更にリスクが高まってくるものと考えております。また、転倒によって身体や脳に更に障害が起こることも予測されますので有用な研究であると考えております。

**・研究期間** 研究実施許可日 ～ 2025年3月31日

**3. 研究に用いる試料・情報の種類**

情報：患者ID（情報管理に使用）、年齢、性別、高次脳機能障害を発症後の経過、家族構成、学歴、生育歴、職歴、運転の有無、経済状態、自覚症状、身体障害者手帳の有無、精神福祉手帳の有無、年金受給の有無

【ADL】 1. 適切な食事摂取や準備片づけが出来ているかどうか。どの程度の支援が必要か。 2. 身の清潔保持、規則正しい生活が出来ているか。入浴回数や介助の有無、風呂の準備、掃除ができるか。掃除・洗濯が出来るかどの程度の援助が必要か。起床、睡眠時間、1日の過ごし方、週何回仕事もしくは就労作業所に通所しているか。 3. 通院と服薬。きちんと受診日や内服管理が出来ているか。どの程度の援助が必要か。 4. 金銭管理と買い物。適当なものを予算内できちんと買う事が出来るか。身近なひとの管理もしくは全般的に委任しているのか。 5. 他人との意思伝達・対人関係が上手くいっているか。自分が言いたいことが言えて相手が出ていることを理解できているか。対人関係のトラブルの有無、易怒性の有無。 6. 身の安全保持・危機管理が出来ているか。物につまずきやすい、よく転倒する、1人で歩道をきちんと歩き危険に対応できるか。転倒回数。 7. 社会的手続きや公共施設の利用ができるか。市役

所等で社会的手続きが出来るか、どの程度の援助が必要か。静かに映画鑑賞をするなど公共施設をきちんと利用できるか。

神経心理学検査（MMSE、三宅式記銘力検査、FAB、TMT、WAIS-ⅢもしくはⅣ、BADS、リバーミード行動記憶検査等）の検査結果。

試料：なし

#### 4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、情報等が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

《照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先》

住 所：〒849-8501

佐賀県佐賀市鍋島5丁目1番1号

佐賀大学医学部附属病院 リハビリテーション科

担 当 者：高次脳機能障害コーディネーター：溝田理恵

電話番号：0952-34-3293

《研究責任者》

佐賀大学附属病院リハビリテーション科 教授 浅見豊子

#### 【この研究の試料・情報の取扱い】

倫理委員会の承認を受けた研究計画書に従い、お預かりした情報等には個人を識別できないよう処理を行い、ご協力者の方の氏名や住所などが特定できないよう安全管理措置を講じたうえで取り扱っています。

このお知らせは研究実施許可日より2025年3月31日までの間、研究対象となる患者さんへの公表を目的に、佐賀大学医学部附属病院臨床研究センターホームページに掲載しているものです。

佐賀大学医学部附属病院臨床研究センター <http://chiken.med.saga-u.ac.jp>

なお、この研究内容は佐賀大学医学部附属病院臨床研究倫理審査委員会で審査を受け、研究機関の長の許可を受け実施されています。臨床研究センターHPでは、佐賀大学医学部附属病院臨床研究倫理審査委員会に関する他の情報等も公表していますのでご覧下さい。